

ジャパンツアー 競技運営に必要なスタッフおよびエリア

1. 運営スタッフ

	役割	人数	手配レベル	手配/費用負担	業務内容/備考
1	テクニカル・デリゲイト (TD)	1	◎	JMSCA	
2	審判長	1	◎	JMSCA	
3	主任審判員	1	◎	JMSCA	
4	チーフ・ルートセッター	1	◎	JMSCA	
5	ルートセッター	1	◎	JMSCA	
6	審判	B: 5~10 L: 2~8	◎	ORG	種目や競技進行によって人数が変化
7	ルートセット補助	1~2	○	ORG	
8	ビレイヤー (L/S)	L: 6~ S: 2~4	◎	ORG	
9	選手管理	3~	◎	ORG	・選手受付 ・通信機器の回収/返却 ・アイソレーション、コールゾーンでの選手の呼出 ・荷物運搬 等 会場の仕様によって必要人数は変化
10	リザルトサービス	1	△	ORG	・成績集計 ・スコアカード作成 等
11	ブラッシャー (B)	5~10	△	ORG	課題数や会場面積によって必要人数変化
12	コンペティションドクター	1	◎	JMSCA	

<凡例>

◎：必須、○：可能な限り用意、△：人員に余裕があれば用意

ORG：主催者（共催）、会場ジム（主催）が用意

2. 会場の仕様

	エリア名	仕様
1	FOP (競技エリア)	クライミングウォールおよびその前面 (審判やビレイヤーが稼働するスペース) 観客の進入は不可。
2	アイソレーションゾーン	競技前選手の隔離スペース。観客の進入は不可。ブルーシート等でフロアを区切ってエリアを確保する。 (クライミングジム等でトイレが 1 か所しかない場合は、トイレをアイソレーションゾーンの一部とし、観客用は近隣施設に協力を仰ぐ or トイレ入口にスタッフを配置し観客と選手が接触しないよう監視する必要がある。)
3	コールゾーン	アイソレーションゾーンの一部で、競技直前の選手の待機場所。 ボルダリングの場合、全課題の休憩場所となるため、最大 10 名 (10 課題同時進行の場合は 20 名) が待機できるスペースが必要。なるべく椅子を用意すること。
4	観客エリア	観戦スペース。競技エリアとは明確にエリアを分ける必要がある。判定用ビデオが観客エリアの後方になる場合、観客が撮影の妨げにならないよう注意する必要がある。